理工学部

Ⅰ　2022 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2022 年度大学評価結果総評】（参考）
2021 年度中期目標・年度目標達成状況に関しては、内部質保証、教育課程・学習成果、学生の受け入れ、教員・教員組織、学生支援、社会貢献・社会連携の評価基準がほぼ達成されている。概ね 4 年に一度の周期でカリキュラムが改定されているが、2021 年度は 2019 年度に改定されたカリキュラムの 3 年目にあたっていた。学習成果を定量的に検証するデータの取りまとめと情報共有について意欲的に取り組み、カリキュラムの適切性を確認している点は高く評価できる。その成果が新たなカリキュラムの改定にも生かされることを期待する。また、新カリキュラムが目標とする編入学生の国内外の大学からの広い受け入れの実現にはおおいに期待したい。各学科にコースや学習フィールドを設定し、教育の順次性・体系性を明示するカリキュラムマップとカリキュラムツリーを適切に作成し、教育課程と学習内容を可視化している点、高学年と大学院のゼミを一体とするなど学部を大学院と強く連携させ、ゼミ活動のスペースを提供することで学内に滞在して勉学を行える環境が整えられている点も高く評価できる。
【2022 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】
新カリキュラムの策定が無事に終わり，2023 年度より年次進行で実施されている．新カリキュラムでは，最先端の科学技術を体系的に学べるよう専門科目の見直しが行われていることに加え，卒業研究等の通年科目を半期化して，すべての科目を半期とすることで，比較的容易に留学が行えるカリキュラムとなっている． 編入制度についても，カリキュラムと合わせて整備し，2024 年度より 2 年次編入が，2025 年度より 3 年次編入が実施される予定である．

Ⅱ　自己点検・評価

1　教育課程・学習成果

（1）点検・評価項目における現状

1.1　授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を記入してください。	
学位：理工学 ● 専門分野の体系的学識を持ち、優れた問題発見・解決能力を有するとともに変化の速い先端技術に自律的に柔軟に対応可能な専門性を有する。 ● 専門分野の学識に加え学部教育で総合的に培われた基礎・基盤学問分野の素養をもとに新たな分野の開拓・創生に挑戦する創造的姿勢を有する。 ● 専門分野において外国語によるコミュニケーションが可能であるとともに異文化を良く理解し、グローバルに活躍できる国際性を有する。 ● 技術と社会のかかわりを深く意識し、高い倫理観を持って持続可能な社会構築にむけリーダーシップを発揮し貢献できる豊かな人間性を有する。	
1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。	はい
1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
理工学部 HP　https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/policy/diploma/	

1.2　授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

● 時代のニーズに対応したコース設定により履修を体系化させ、社会の要請に応える質の高い教育を実施する。 ● 少人数のゼミ教育のなかで先端的な実験・研究への取り組みを行うことにより高度な専門性と独創性を身につけさせる。 ● 学びの多様性、学際分野の学びに対応するため、学部横断的教育プログラムを設ける。 ● 自然法則に感動を覚える基礎実験、参加型学習（PBL）等により高い動機づけを行う。 ● インターンシップ等のキャリア教育により実務能力と社会人としての倫理観を育成する。 ● 外国語による論文作成法や口頭発表等の実用的なコミュニケーション能力の涵養をめざし、能力別、少人数教育、スタディアブロード（SA）等を実施する。 ● 自然科学系の基礎科目（数学、物理）について基礎学力が不足する学生に対しリメディアル教育を充実させる。	
1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	はい
1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
理工学部 HP　https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/policy/curriculum/	

1.3　教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①「法政大学学則」第 23 条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい

1.4　学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

1.4①「法政大学学則」第 22 条の 2（履修科目の登録の上限）に基づき、1 年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
1.4②学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.4③学生の学習指導を適切に行っていますか。	はい
1.4④学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行っていますか。	はい
1.4⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	はい
1.4⑥シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
【根拠資料】	
理工学部　履修の手引き	

1.5　成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.5①「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学学則」第 17 条（卒業所要単位）に基づき、卒業の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するため	はい

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

の措置を講じていますか。	
【根拠資料】	
理工学部　履修の手引き，シラバス， 理工学部 HP　https://www.hosei.ac.jp/application/files/7015/8563/7327/14_.pdf	

1.6　学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーを記入してください。	
理工学部では、学生の学修成果について、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）の３つのポリシーに照らして、下記のとおり検証を行う。 ● 入学段階において、各種入学試験における成績、調査書等の記載内容、面接等を用いて、異なる背景をもって入学した学生が理系科目及び英語について、入学時十分な基礎的素養を持つことの測定を行う。 ● 教養科目、理系教養科目への取り組みと成果を通じて、基礎・基盤学問分野の素養を有することの測定を行う。 ● 専門科目、専門実験科目への取り組みと成果を通じて、専門分野の体系的学識と先端技術に自律的に柔軟に対応可能な専門性を有することの測定を行う。 ● 卒業論文、ゼミ関連科目、PBL、対外発表への取り組みと成果を通じて、優れた問題発見・解決能力と新たな分野の開拓・創生に挑戦する創造的姿勢を有することの測定を行う。 ● 外国語科目、SA への取り組み、外国語による発表への取り組みと成果を通じて、外国語によるコミュニケーションが可能であるとともに、グローバルに活躍できる国際性を有することの測定を行う。 ● インターンシップ、就職状況、卒業時アンケート等を用いて、高い倫理観を持って持続可能な社会構築にむけリーダーシップを発揮し貢献できる豊かな人間性を有するか測定を行う。	
1.6②上記のアセスメント・ポリシーは、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標となっていますか。	はい
1.6③授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーに基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.6④学習成果を可視化していますか。	はい
【根拠資料】	
大学ポートレート https://up-j.shigaku.go.jp/department/category02/00000000267201041.html	

1.7　教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.7②大学評価室による学生調査結果（入学前アンケート・１年生アンケート・卒業生アンケート）を組織的に利用していますか。	はい
【根拠資料】	
理工学部教授会議事録	

（２）特色・課題

以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。 【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】それぞれの項目の中で「特色」または

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

「課題」を選択し、内容について記入してください。	
【教育課程・教育内容】 ・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と連関性の検証 ・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等含む）への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。） ・幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程の編成 ・初年次教育・高大接続への配慮 ・学生の国際性を涵養するための教育内容の提供 ・学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育の適切な実施	
特色	幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程の編成
最先端の科学技術を体系的に学ぶことが可能な専門教育のカリキュラムに加え，世界で活躍できるグローバルな価値観を持った学生を養成すべく教養教育のカリキュラムにも力を入れており，様々な国の言語や，文化を学ぶことができる．	
【教育方法】 ・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等） ・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）	
特色	教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）
実験，演習，PBL，卒業研究等，学生が自ら取り組む形の授業形態に力を入れている． 特に，PBL や卒業研究では，既定の答えがない問題に対して，各自がそれぞれの解決方法を探求するような，課題解決型の授業となっている．	
【学習成果】 ・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用。 ・アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果を把握する取り組み ・アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み	
課題	アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を把握する取り組み
理工学部は実学的な要素が強く，カリキュラムや教育方法が最新の社会情勢に適していることが求められる． 今後は，卒業生からのフィードバックが得られるような状況とすることで，実社会への貢献といった観点から学習成果を評価していく必要がある．	
その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
法政大学理系コンソーシアムを設立し，卒業生や企業からの支援を受けながら，実践的な教育が可能な仕組みを構築中である．	
課題	
研究教育用の大型実験設備の保守・更新に多額の費用が必要となり，今後，世界的なレベルの研究・教育環境を如何にして維持していくかが大きな課題である．	

2　学生の受け入れ

（１）点検・評価項目における現状

2.1　学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

2.1①学部ごとに学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を記入してください。	
● 入学後の理工学分野の修学に必要な基礎学力を備えている。 ● 入学後の修学に必要な言語能力とグローバルな意識を有する。 ● 理工学分野に関心をもち科学技術を社会に生かす意欲を有する。 ● 社会的適応性を持ち、自発性、自由な発想力を有する。	
2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。	はい
2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
理工学部 HP　https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/policy/admission/	

2.2　学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。
下記のように多様な入試経路を設け，異なる資質を持つ学生が入学できるよう公正な制度を整備している． ● 一般選抜（学部・学科に重要な基礎学力のレベルの高い学生を選抜する） ● T日程および英語外部試験利用入試（出願資格型）（全国から主要科目の基礎学力を重視し学生を選抜する） ● 大学入学共通テスト利用入試（バランスのとれた学力を有する学生を全国から集めることを目的とし、基礎学力に注目した選抜を行う） ● 指定校推薦入試（豊かな自発性、指導性、自由な発想力を重視して指定する高校から優秀な学生を受け入れる） ● 付属校推薦入試（高大連携により特色ある教育の実践を目指し意欲のある付属校生を受け入れる） ● 帰国生入試・外国人留学生入試（国際性を身につけた学生を受け入れる） ● スポーツ推薦入試（学業とスポーツを両立できる優れた人材を受け入れる） また，障がいのある学生についても可能な限り受け入れる方針で入試の事前相談を行っている．

2.3　適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2.3①【2023年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均又は収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。	はい

2.4　学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

表１

学部・学科における過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均	0.90～1.20 未満
学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率	0.90～1.20 未満

３　教員・教員組織

（１）点検・評価項目における現状

3.1　大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

3.1①学部の求める教員像および教員組織の編成方針を記入してください。
教員像 a　本学の理念・目的・教育目標を十分に理解していること。 b　学生への愛情と優れた教育力をもつ人間性豊かな教育者であること。 c　授業改善に積極的に取り組むこと。 b　国際的に通用する高度な研究を行う優れた研究者であること。 教員組織の編成方針 a　本学の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学習成果の把握に関する方針、学生の受け入れ方針などを実現するのに相応しい組織であること。 b　大学の自治を実現するのに相応しい、自主的かつ自律的な組織であること。 c　教員の募集・採用・昇格等について、明確な基準と公正・適切・透明な手続を有していること。 d　教員の資質向上、授業改善、カリキュラム改革、内部質保証などに積極的に取り組むのに相応しい組織であること。

3.2　教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.2①学部の教員組織の編制は、理念・目的、教員組織の編制方針に整合していますか。	はい
3.2②教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
3.2③専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	
学問的な専門性などをもとにコースやフィールドを設け，複数のコースやフィールドが集まって学科を構成するような形をとることで，偏りを防ぎ，各学科に必要な主要科目が満遍なく配置されるような組織となっている．	

3.3　教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

3.3①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。	はい
3.3②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。	はい
【根拠資料】	
理工学部教授会内規	

3.4　教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.4①学部（学科）内のＦＤ活動は組織的に行われていますか。	はい
3.4②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022 年度の FD 活動の実績（開催日・	

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

テーマ・参加人数）を記入してください。
教員による相互授業参観を実施し，25 件の参観が報告された． 学部内に FD 委員会を設置し，FD 活動を推進している．2022 年度はメール審議にて委員会を開催した． 第１次：２０２２年１２月１４日，参加委員２名，執行部２名 第２次：２０２３年１月９日，参加委員２名，執行部２名 第３次：２０２３年１月１７日，参加委員２名，執行部２名 第４次：２０２３年１月２５日，参加委員２名，執行部２名 各種アンケートの結果を分析し問題点に対応する体制の構築について検討した．

3.4③学部（学科）内において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	はい

3.4④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。
学部内に研究推進委員会を設置し，研究環境の向上に努めている．2022 年度は 3 回の委員会を開催した． 第１回：２０２２年１２月５日，参加委員４名，執行部３名，アドバイザー３名，事務部２名 第２回：２０２３年１月２６日，参加委員５名，執行部１名，アドバイザー３名 第３回：２０２３年３月１日，参加委員５名，執行部１名 若手の研究力の増強を将来的に目指すため，助手制度の在り方や博士課程を活性化する方策について検討した．

4　学生支援

（１）特色・課題

以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。
【学生支援】 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・学生の自主的な学習を促進するための支援 ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・外国人留学生の修学支援 ・オンライン教育を行う場合における学生への配慮（相談対応、授業計画の視聴機会の確保等）

課題	学生の自主的な学習を促進するための支援

コロナ禍の影響により，部活，サークルなどの課外活動が縮小傾向にある． 特に，長年受け継がれてきた伝統や技術なども途絶えてしまう可能性があり，活動が活性化するような支援が必要である．
その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。
特色
キャリア相談会など，卒業生が在学生の就職をサポートするイベントを実施している． 今後は，理系コンソーシアムを設立し，さらに充実した支援体制を構築していく予定である．
課題
入試経路の多様化に伴い，入学時の学力のばらつきが大きくなりつつある． 今後は，リメディアル教育を実施する体制を充実させるなど，きめ細かく学生を支援で

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

きるような体制を構築していく必要がある.

5　教育研究等環境

（１）点検・評価項目における現状

5.1　研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

5.1①学部として研究倫理の向上及び不正行為の防止等について、公正な研究活動を推進するための適切な措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
理工学部教授会議事録	

Ⅲ　2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準		内部質保証
中期目標		内部質保証について運用体制を見直し効率化を図る。
年度目標		オンライン環境の利用を推進する。
達成指標		・関連する会議等のオンライン化 ・申請書などの電子化 ・業務削減率 50%
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	基本的に会議はオンラインと対面との併用とした. 申請書についても共有シートなどを活用し電子化を進めた. コロナ前に比べ, 電子化による紙媒体の削減率は７０％程度である.
	改善策	電子化における使いやすさとセキュリティーの両立を図る.
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	達成指標・目標値は適切であり、目標値は十分に達成されており, S 評価は妥当である.
	改善のための提言	オンラインと対面の長所短所を再考する. その際に、電子化におけるセキュリティー確保の早期検討も望まれる.
評価基準		教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標		国際化、多様化に対応したカリキュラムの検討と構築。KLAC との連携強化。
年度目標		2023 年度実施予定のカリ変に向けたカリキュラムの策定
達成指標		・通年科目の半期化による留学対応 ・国際教養関連科目の開設 ・SA プログラムの充実 ・教養教育カリキュラムの充実
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	カリキュラムの変更を行い, 通年科目を半期化することで, 卒業年度を遅らせることなく半期程度の留学が可能なカリキュラムとした. 国際教養を養う科目を KLAC 内に新設した. KLAC と連携して, 教養教育についてもカリキュラムの見直しを行った. SA については, コロナ禍のため再開に至っていない.
	改善策	SA については, コロナの終息にあわせて再開したい.
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	カリキュラムの変更に伴い, 短期留学も可能なものとなり SA プログラムの充実につながる. A 評価は妥当である.

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	改善のための提言	安全性を確保しつつ SA の早期再開が望まれる.
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		オンライン教育環境の活用
年度目標		脱コロナを目指したオンライン授業と対面授業の併用
達成指標		・オンライン授業に適した科目の選定と、対面授業と遜色のない学習効果の実現
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	今期はハイフレックス授業を原則として授業を展開した. Zoom などのオンライン授業環境に加え, 学習支援システムを活用することで, 従来よりも効率的に授業を実施できる環境が整った.
	改善策	オンラインテストなど成績評価方法についても検討を行う.
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	オンラインと対面（ハイフレックス）の効率的な実施は評価できる. S 評価は妥当である.
	改善のための提言	オンラインテストは成績評価方法も検討が必要だが, 問題作成方法も検討が必要である. また、今後オンライン授業に適さない科目へのフォローアップが必要である。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		ディプロマ・ポリシーの達成状況の確認とカリキュラム検討へのフィードバック。
年度目標		コロナ禍における学習成果の確認
達成指標		・卒業研究等の成果をもとにカリキュラムの適切性、ディプロマ・ポリシーの達成状況を確認
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	卒業生へのアンケートを行い, ディプロマポリシーの達成状況を確認するとともに, その結果をカリキュラムの検討に反映させた. 卒業研究等の成果については, 依然, コロナ禍のため通常の研究体制に戻っておらず, 今回は, 検討には至らなかった.
	改善策	卒業研究, 卒業生アンケートなど, アウトプットをもとに, ディプロマ・ポリシーの達成状況の確認とカリキュラム検討へのフィードバックを行う.
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	卒業研究等の成果の検討以外はほぼ達成していると考えられる, A 評価は妥当である.
	改善のための提言	今後研究を発展する上での基礎的要因の 1 つでもある卒業研究について、多角的な視点からその位置付けを検討する必要がある.
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		編入学生の受け入れ態勢の構築
年度目標		・編入学試験の実施方法の検討 ・編入学に対応したカリキュラムの検討
達成指標		・定員の数％程度の規模で編入生を受け入れる
年度	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

末報告	理由	2年生編入の制度を整え，次年度より実施することとした．また，これに合わせ，カリキュラムの見直しも実施した．
	改善策	来年度は3年次編入の準備を行う．
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	2年生編入の制度化とそれに伴うカリキュラム見直しは評価に値する，S評価は妥当である．
	改善のための提言	編入学生の選抜を適切に行う方策が期待される．
評価基準		教員・教員組織
中期目標		年齢構成を適正化する。
年度目標		退職教員の後任人事に際しては、適正な採用を行いつつ、年齢構成等の改善を図る。
達成指標		・新規採用時に年齢等をも考慮し、バランスが改善されること。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	採用人事に際し，年齢を考慮して人選を行うよう各学科に依頼して人事を行った．
	改善策	引き続き，年齢を考慮しつつ採用を行う．
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	新規採用人事が各学科ごと年齢を考慮されることが定着した．A評価は妥当である．
	改善のための提言	年齢構成を考慮しつつも，研究領域のバランスも必要である．
評価基準		学生支援
中期目標		学生に対するサポート体制を充実させる。
年度目標		脱コロナに向けた学習支援を行う
達成指標		・学科別ガイダンスの実施 ・学年担任によるサポート ・ラーニングサポーターの活用 ・学生相談室へのつなぎと共同支援
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	学科別ガイダンスの実施，学年担任によるサポート，ラーニングサポーターの活用，学生相談室へのつなぎと共同支援など，当初想定していた全ての支援策を実施していたものの，支援の手が届かない学生がでてしまった．
	改善策	教員ならびに関係部局間で情報を共有することで，支援を必要としている学生を早期に発見できるような体制を構築する．
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コロナ禍で、それぞれの方策の連携が十分できなかったと思われる．
	改善のための提言	オンラインによるオフィスアワーの積極的活用を検討する必要がある．
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		企業、自治体、同窓会等からなるコンソーシアムを設立し、連携を強化するとともに共同事業を推進する。
年度目標		コロナ禍においても実施可能な事業から先行して実施する。

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

達成指標		参加企業数 30 社程度、実施イベント数年間数件程度
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	理系コンソーシアムの設立準備を行い，次年度から実施できる体制を整えた．先行イベントとして，ホームカミングデー，キャリア相談会，科学技術フォーラムを実施した．なお，コロナ禍のため，今回は規模を縮小し，全てのイベントを同一日に開催した．
	改善策	コロナ禍の終息に合わせ，理系コンソーシアムを一般社団法人として設立し，順次，イベントを実施していく．
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	理系コンソーシアムの設立に向けて，実施体制が整ったと考えられる．S 評価は妥当である．
	改善のための提言	今後、理系コンソーシアムの一般社団法人化が急務である．

【重点目標】
当学部では、概ね 4 年に一度の周期でカリキュラム改定を行っている。2022 年度は、そのカリキュラムを策定する年度となる。現在の学習成果とカリキュラムの適切性を把握するとともに、編入学生を日本のみならず海外の大学からも含めて、広く世界から受け入れが可能なカリキュラムを実現する。

【目標を達成するための施策等】
学習成果の定量的な把握（留級率、休学率、退学率、必修科目の単位修得率など）を引き続き行い検討に利用する。また、編入学生を受け入れた場合の履修シミュレーションや、編入学試験の方法など、受け入れ態勢やその後のサポート方法についても学部内委員会等で検討を行う。

【年度目標達成状況総括】
本年度は，4 年に 1 度の大規模なカリキュラム改定を行い，最先端の科学技術に対応すべく学習内容を見直した．また，グローバル化を視野に，卒業論文などの通年科目を半期化することで，容易に留学可能なカリキュラムとした．これに合わせ，KLAC でもカリキュラムの改定が行われており，諸外国語のレベル別授業の実施や，国際教養を育む授業を追加するなど，理工のカリキュラム変更と合わせて，国際化教育の体制が強化された．
編入学についても，カリキュラムの改定と合わせて検討を行い，まず，2 年次編入の体制を整備して来年度より実施することとした．3 年次編入については，来年度に詳細を決定するが，将来，ジョイントプログラムなど海外の大学からの編入学も視野にいれた仕組みとする予定である．

Ⅳ　2023 年度中期目標・年度目標

評価基準	内部質保証
中期目標	内部質保証について運用体制を見直し効率化を図る。
年度目標	効率的な運営組織の立案
達成指標	新しい運用体制が提案されること
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	国際化、多様化に対応したカリキュラムの検討と構築。KLAC との連携強化。
年度目標	留学を想定した推奨履修プランを作成し，学生に周知する．
達成指標	幾つかの魅力的なプランが作成され，学生に周知されること
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	オンライン教育環境の活用

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度目標	オンライン教育の活用モデルを作成し教員間で共有する.
達成指標	オンライン教育が効果を発揮するような実施例が教員間で共有されること
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	ディプロマ・ポリシーの達成状況の確認とカリキュラム検討へのフィードバック。
年度目標	卒業生にアンケートを実施し，社会から見たディプロマ・ポリシーの重要性，達成状況などを確認する.
達成指標	アンケート結果の収集と分析が行われること
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	編入学生の受け入れ態勢の構築
年度目標	３年次編入制度の策定を行う.
達成指標	３年次編入の実施が可能となること
評価基準	教員・教員組織
中期目標	年齢構成を適正化する。
年度目標	年齢構成に配慮しつつ，適切な後任人事を行う.
達成指標	教員の平均年齢が低減されること
評価基準	学生支援
中期目標	学生に対するサポート体制を充実させる。
年度目標	課外活動の支援を行う.
達成指標	課外活動が活性化すること
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	企業、自治体、同窓会等からなるコンソーシアムを設立し、連携を強化するとともに共同事業を推進する。
年度目標	法政大学　理系コンソーシアムを設立し，運用を開始する.
達成指標	理系コンソーシアムが設立され，キャリア相談会等のイベントが実施されること

【重点目標】
企業，自治体，卒業生などからの協力を仰ぎ，入学から就職に至るまで一貫した支援体制を構築することで，入学者の学力レベルの向上，教育効果の向上，卒業生に対する社会的評価の向上を図る.
【目標を達成するための施策等】
理系コンソーシアムを設立し，コンソーシアムを通して，参加企業，自治体，同窓会からの支援を仰ぐ

【大学評価総評】

2022 年度中期目標・年度目標達成状況に関しては、内部質保証、教育課程・学習成果、学生の受け入れ、教員・教員組織、学生支援、社会貢献・社会連携の評価基準がほぼ達成されている。ハイフレックス授業を原則として授業を展開し、Zoom などのオンライン授業環境に加え、学習支援システムを活用することで、従来よりも効率的に授業を実施できる環境が整ったことは大いに評価できる。2022 年度の重点目標としてあげたカリキュラムの改定では、通年科目を半期化することで，卒業年度を遅らせることなく半期程度の留学が可能にしたこと、KLAC と連携して教養教育についてもカリキュラムの見直しを行い国際化教育の体制が強化されたことは大いに評価される。また、カリキュラム見直しは、編入制度の実現にも関連しており、2 年生編入の制度を整え，次年度より実施することとした成果を期待したい。また、企業、自治体、同窓会等からなる理系コンソーシアムを設立し、連携を強化するとともに共同事業を推進するための設立準備を行い、次年度から実施でき

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

る体制を整えたことも高く評価できる。入学から就職に至るまで一貫した支援体制を構築することで、入学者の学力レベルの向上、教育効果の向上、卒業生に対する社会的評価の向上に関する今後の成果が大いに期待される。

【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023年度自己点検・評価シートに記載された Ⅱ自己点検・評価（１）点検・評価項目における現状を確認	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していることが確認できた
＜法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目＞	

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。